



2020年1月期 第2四半期 決算説明資料

ベステラ株式会社
東証第一部(証券コード:1433)

決算のポイント(連結)

資本業務提携 共同研究開発

- ・リバーホールディングス(株)
「高度循環型社会」の構築を目指し、資本業務提携を行い、リバーホールディングス社株式の14.6%を取得
- ・(株)イクシス
天井クレーンの定期的な検査を効率的に行うためのロボットを共同開発

売上高

1,907百万円

- ・売上高は対前年203百万円(9.6%)減
- ・2020年1月期は、当初の想定通り、第2四半期会計期間の工事完成が減少

営業利益

153百万円

- ・営業利益は、高利益率工事が多く、対前年13百万円(9.9%)の増益
- ・売上総利益率22.8%(前年同期18.6%)と好調

業績予想

- ・堅調な受注見込案件の状況を踏まえ、売上高15.7%増、営業利益5.5%増、配当16円(前年比+1円)の増配予想

トピックス① リバーホールディングス(株)との資本業務提携



リバーホールディングス(株)の株式を14.6%取得し、 資本業務提携契約を締結しました。

- 環境サプライチェーン(プラットフォーム)を構築し、中小規模事業者の参画を呼びかけ、日本発のマテリアルリサイクル(静脈)メジャーの誕生を目指します。
- 動脈産業と静脈産業を連携させる役割を果たし、高度循環型社会において欠かすことの出来ないポジショニングを構築します。
- ワンストップサービスの充実、環境対策工事の受注機会拡大、環境に配慮した提案力の強化等のプラント解体工事業での連携効果を生み出します。また、規模の拡大によるスケールメリットを活かし、静脈産業全体の発言力向上、市場相場の適正化を目指します。



**持続可能な開発目標 (SDGs) の実現
「高度循環型社会」の構築**

トピックス② (株)イクシスとクレーンレール検査ロボットを共同開発

プラント・工場設備に設置され重量物や部品の運搬等に用いられる天井クレーンの定期的な検査を効率的に行うため、クレーンレール上を自走し検査を行うロボットを共同開発しました。

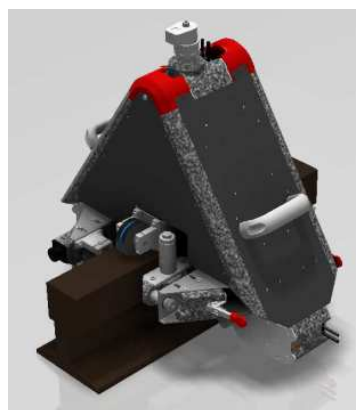


クレーンレール検査の重要性

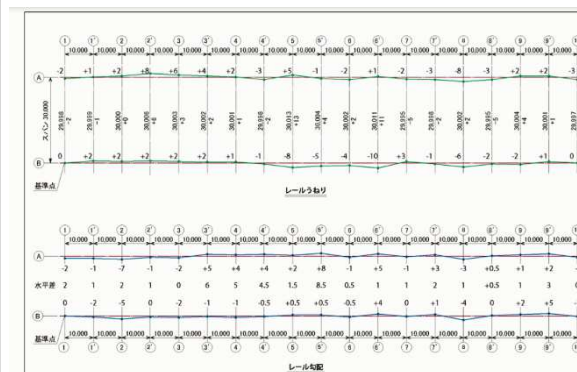
天井クレーンは、経年劣化等により歪みが発生し、放置すれば重大な事故につながります。そのため、労働安全衛生法のクレーン等安全規則は、クレーン設置企業に年1回および1ヶ月に1回の自主検査を義務付けております。なお、天井クレーン計測の国内市場規模は、年間300億円以上(当社試算)と推定しております。

検査システムの
安全性向上、高効率化

3D計測サービスの
事業拡大



検査ロボット構想図
※意匠出願中



計測結果イメージ

損益計算書: 第2四半期(2020年1月期)

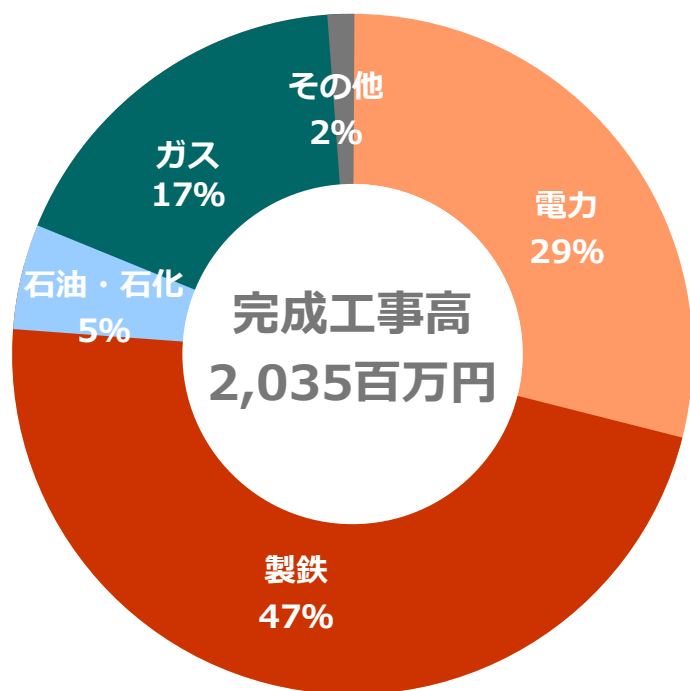
売上高は、当初の想定通り、第2四半期会計期間の工事完成が減少し、前年同期比9.6%の減収となりました。営業利益に関しては、高利益率工事が多かったため、前年同期比9.9%の増益となりました。

単位: 百万円

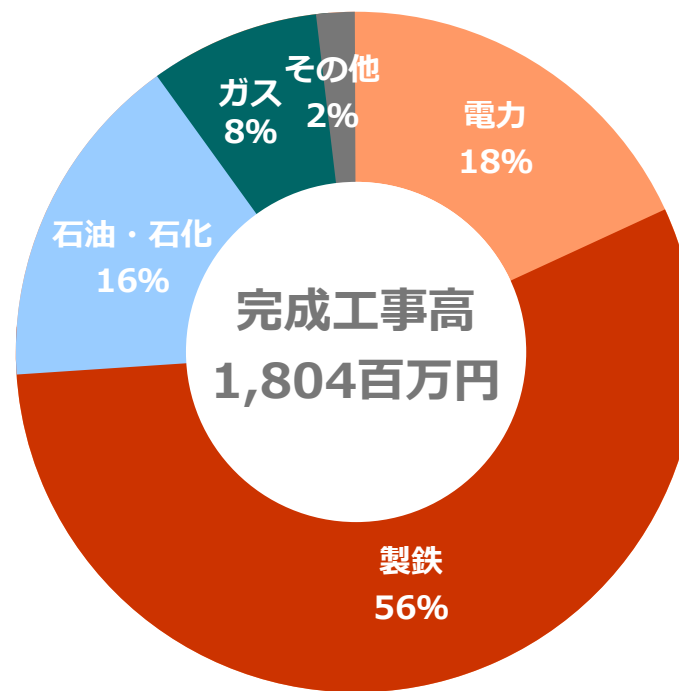
	2020年1月期 第2四半期	対売上高 比率	前年同期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	1,907	—	2,110	▲203	▲9.6%
売上総利益	434	22.8%	392	41	10.7%
販売費及び 一般管理費	280	14.7%	252	28	11.1%
営業利益	153	8.1%	139	13	9.9%
経常利益	153	8.0%	139	13	10.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	101	5.3%	90	10	11.3%

業界別 完成工事高構成比率

2020年1月期第2四半期は、西日本における製鉄所の工事が多くなっており、製鉄の比率が高くなっております。



2019年1月期（第2四半期）

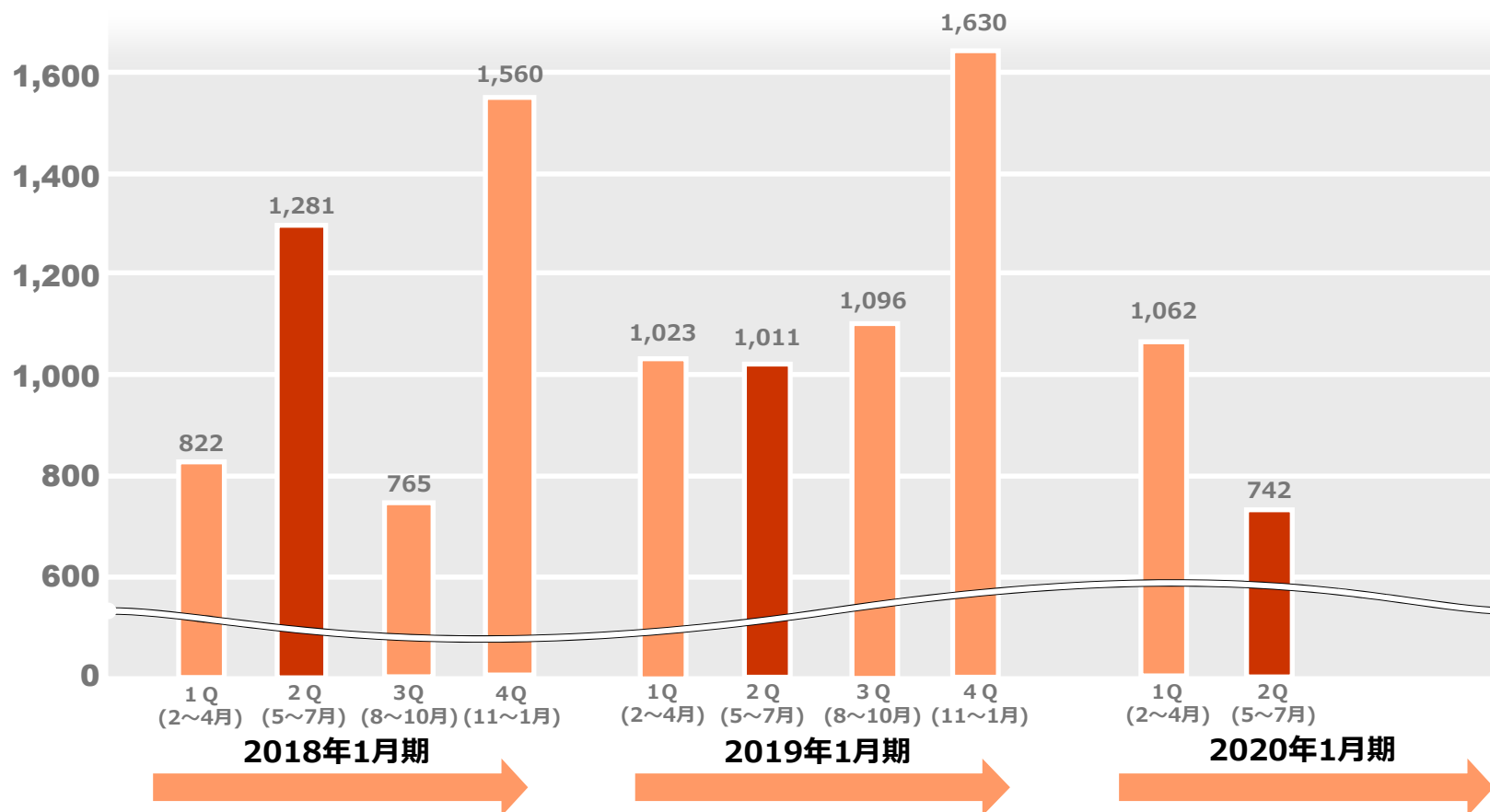


2020年1月期（第2四半期）

完成工事高の推移について

当社の完成工事高は、顧客(施主)の設備投資計画に応じた季節性があります。当社は、第4四半期会計期間に計上される割合が高くなる傾向があります。

単位: 百万円



販売費及び一般管理費：第2四半期(2020年1月期)

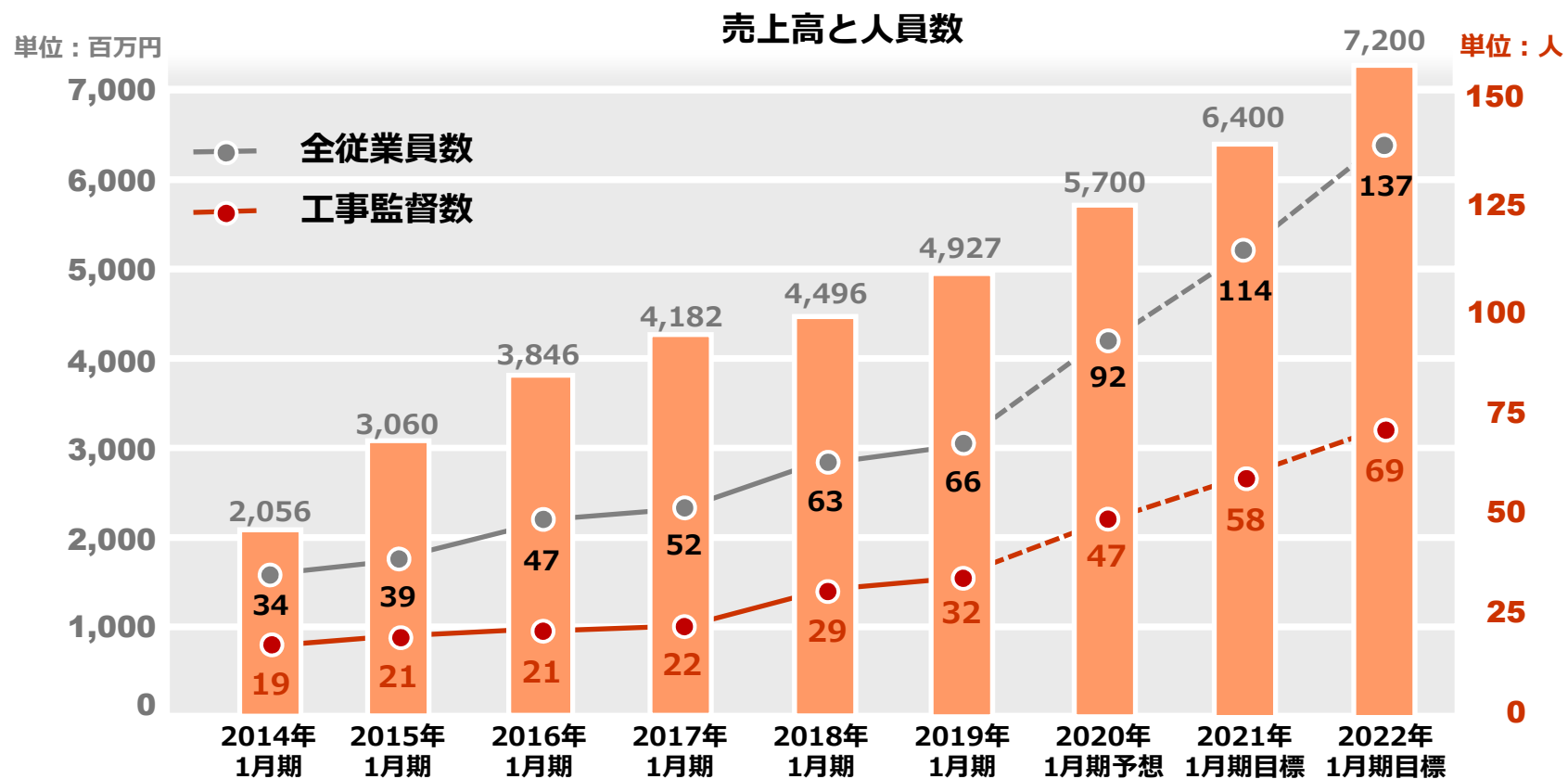
販管費は、本社ビルを賃貸に変更した費用が増加しております。第1四半期に実施したベースアップ等により平均給与が増加しております。

単位：百万円

	2020年1月期 第2四半期	前年同期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	主な増減要因
人件費	132	119	13	11.0%	平均給与増
研究開発費	12	9	2	22.5%	ロボット開発
支払手数料 支払報酬	27	25	1	7.4%	基幹システム改良
採用費	8	5	3	61.9%	広告媒体、紹介手数料 等
広告宣伝費	7	15	▲7	▲47.4%	展示会減少
その他	92	77	14	19.1%	本社ビル賃貸費用
合計	280	252	28	11.1%	

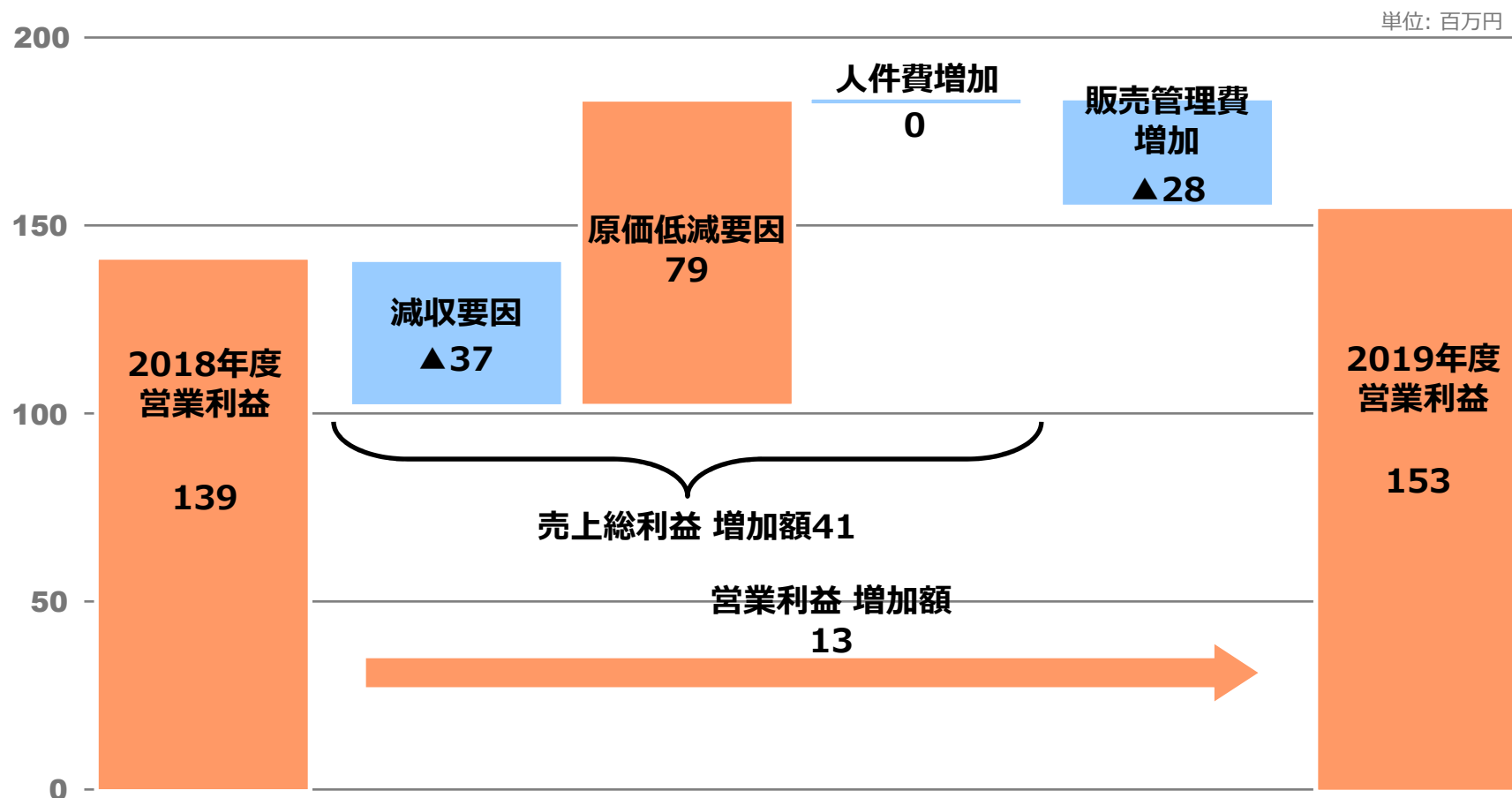
人員計画の進捗

中期経営計画の人員計画に基づき下記の人員計画を作成しております。第2四半期末現在、**工事監督数は、期首から2名増の34名**となっております。



営業利益の増減要因分析(個別):第2四半期(2019年1月期)

高利益率工事の影響により、原価率が低くなり、売上総利益率は22.8%となっております。



貸借対照表：第2四半期(2020年1月期)

単位：百万円

	2020年1月期 第2四半期	前事業年度末	増減額	主な増減要因
流動資産	2,771	4,059	▲1,288	工事の進行に伴う原価の支払等によるもの
(うち現金預金)	(1,278)	(2,032)	(▲753)	
固定資産	466	504	▲38	会計基準（税効果会計）の変更によるもの
流動負債	545	1,893	▲1,347	原価支払による短期の未払金減少によるもの
固定負債	60	56	4	退職給付引当金の増加によるもの
純資産	2,631	2,614	16	利益の積立によるもの
総資産	3,237	4,564	▲1,327	

受注状況：第2四半期(2020年1月期)

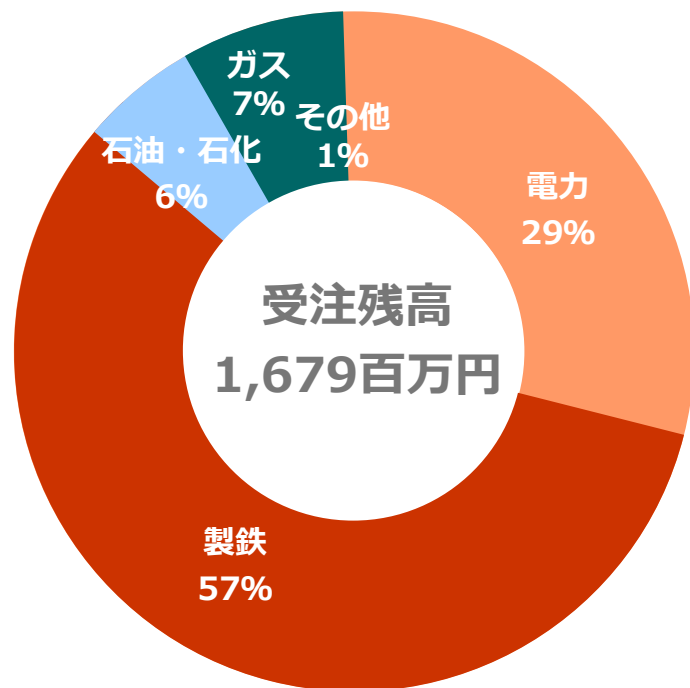
受注残高は、工事の引き合いが順調に推移しているものの、受注まで至っていないため、期首から一時的に減少しております。

	2020年1月期 第2四半期	前年同期	増減額	増減率
期首繰越工事高	1,021	2,218	▲1,196	▲53.9%
受注工事高	1,615	1,163	452	38.9%
完成工事高	1,804	2,035	▲230	▲11.3%
期末繰越工事高 (受注残高)	832	1,346	▲513	▲38.2%

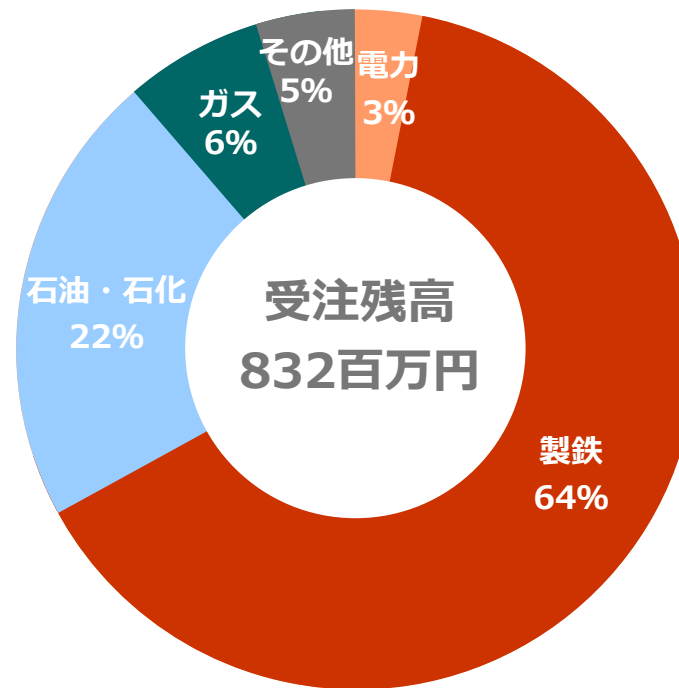
単位：百万円

業界別 受注残高構成比率

京浜事務所の新設や西日本地区の営業力強化を進めており、製鉄関係の需要を積極的に取り込んでおります。



2019年1月期 (第2四半期)



2020年1月期 (第2四半期)

業績予想 (2020年1月期)

2020年1月期の業績予想は、堅調な受注見込案件の状況を踏まえ、売上高15.7%増、営業利益5.5%増、配当16円(前年比+1円)の増配予想となっております。

単位: 百万円

	業績予想 2020年1月期	実績 2019年1月期	増加率
売上高	5,700	4,927	15.7%
営業利益	525	497	5.5%
経常利益	521	495	5.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	367	621	▲41.0%
1株当たり 当期純利益	44円	75円	—
1株当たり配当金	16円	15円	—
配当性向	35.9%	19.9%	—

本資料についてのご留意事項

- 本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に記載されている将来の予測等は現時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競合状況等、多くの不確実な要因を受けます。
- 本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願いいたします。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。
- 本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。

ベステラ株式会社

